



宮永 岳彦

こころと感性の辿った道

2021.7/1 Thu ▶ 2022.1/30 Sun

秦野市立 宮永岳彦記念美術館 開館 20 周年記念展示

開館時間 | 10:00~19:00

(入館時間は 18:30 まで)

休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)

主催 | 秦野市

観覧料 | 一般 300 円

(隣接する「弘法の里湯」をご利用の方は 200 円)

高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

協力 | ペんてる株式会社 小田急電鉄株式会社

宮永岳彦

こころと感性の辿った道

宮永岳彦記念美術館 開館20周年記念展示

2021.7/1 Thu ▶ 2022.1/30 Sun

本年、2021年(令和3年)、宮永岳彦記念美術館は開館20周年を迎えます。開館以来、年2回、全作品を入れ替える展示替えを実施し、商業デザインから純粋絵画まで幅広く活躍した宮永岳彦(1919~1987)の残したバラエティ豊かな作品と、人間的にも魅力的な画家の足跡を、様々なテーマでお楽しみいただけてまいりました。開館20周年を記念する本展では、宮永が生涯こだわり、また、クライアントの思惑から解放され自由に描いた油彩画をクローズアップし、洋画家・宮永岳彦の世界をご堪能いただきます。

宮永の油彩画といえば、晩年に取り組んだ豪華絢爛な美人画が代名詞になっていますが、そこに至るまでに辿った道には、ひとりの画家のものとは思えないほど多彩な作品が溢れています。そして、その軌跡を辿ることで、絵画の技術的な模索だけでなく、ある時は昭和という時代の放つ刺激にインスピレーションを感じ、またある時は自らの世界の構築のために社会からの刺激と闘った、画家のこころの動き、そして感性の閃きが見て取れます。昭和の空気、そして、宮永の思いを感じながら、様々な変化する宮永芸術の展開をお楽しみください。



《浴する女》油彩・キャンバス 1949年



《海女》油彩・キャンバス 1952年



《蒼い太陽》油彩・キャンバス 1956年



《薫り》油彩・キャンバス 1962年



《道成寺前乱拍子》油彩・キャンバス 1965年



《YUGOSLAVIA 宴》油彩・キャンバス 1972年



《顔くポツティチェルリ「ヴィーナス誕生」想》油彩・キャンバス 1983年

宮永岳彦 (1919~1987)

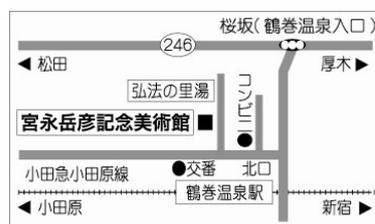
「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡(現在の磐田市)で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、昭和21年から15年間、秦野市名古木のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、昭和54年には日本芸術院賞を受賞、昭和61年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

表: 《ファルーカ》油彩・キャンバス 1969年

秦野市立 宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北3-1-2
TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅より徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用
40台 / 1時間150円
以降30分ごとに100円